

## 英語の学び方と EA メソッド

2022年4月1日

### はじめまして

東京中目黒の ESL<sup>注)</sup> 英語学校、イングリッシュ アベニュー (EA) の代表、加藤麻子と申します。コロナウィルスとの生活も3年目に入り、未だに気の抜けない毎日ですが、ニューノーマルな環境の中、小さなお子様から仕事で英語を使う方まで、EA の生徒さんたちは楽しく、本気で英語を学んでいます。遠隔地にお住まいの生徒さんも、オンライン授業で対面授業と同等の充実したレッスンを受講しています。

EA はこの夏、開校 15 年目を迎えます。この間、私たちは数多くの生徒さん達と出会いました。EA の生徒さんは3年～10年と長期にわたってご家族で通われる方が多いため、卒業後もスクールと繋がっている方々が大勢います。幼稚園や小学校で英語を始めた子ども達は、早や大学生になり、中学・高校・大学で始めた生徒さん達は、海外留学や会社勤め、大学の先生になったり、海外に赴任したりと、目覚ましい成長を遂げています。多くの卒業生が世界に羽ばたいて行くのを目の当たりにすることは大変嬉しく、スクールの誇りとなっています。

様々な目標をもつ生徒さん達を教える中で、教師である私たちも実に色々なことを学び、適宜授業に生かしてまいりました。しかし、EA の英語教育方針は開校当初から一貫しており、**English Avenue Method** 【EA メソッド】 という形でスクールのカリキュラムに反映されています。EA メソッドについては後述します。

### 日本人の英語力

日本人の英語力は、この30年間で底上げされてきたと感じています。2年前に改訂された大学入学共通テストの英語は、英語を英語のまま理解して、英語で答える方式に変わりました。それでも、大学を卒業した人達が、初級レベルの英語も十分に話せないという現実は変わっていません。日本では資格試験で能力を測る傾向があり、EA でも TOEIC、TOEFL、TOEFL Junior、IELTS、英検等の資格試験準備クラスを開講しています。でも、仮に高得点をとったとしても、そのスコアは、そのレベルで英語を使うスタート地点に立ったことを示す指標にすぎません。実際に「使う」訓練をしない限り、英語は使えるようにならないのです。運転免許を取っても一定期間練習しないと一般道、次に高速道路に乗れないのと同じです。高度な英語を目指すのであれば医師やパイロットの免許をとっても実地訓練なしには医者やパイロットになれないのと全く同じです。

しかし、全員が同じカリキュラムを履修する必要はありません。自分の目標を決めて、そこに向けて計画を立て、練習をすれば良いのです。海外一人旅に行きたい、外国人観光客にボランティアガイドをしたい、外資系企業で英語を使って仕事がしたい、海外の大学で博士号を取りたい等々、生徒さんの目標は多岐にわたっています。そこで、各自が短期・中期目標を設定し、目標に向けて

---

\*ESL = English as a second language 第二言語としての英語

カリキュラムを作り、毎回のレッスンプランに落とし込んでいく必要があるのです。皆が同じカリキュラムで練習しても、目標は達成されません。

### 英語を学ぶ意義

端的に言うと、日本の学校英語の目標は大学受験であり、受験英語には自信があっても、自分の英語には自信のない英語教師が、大学は受かっても、英語の使えない人達を再生産するシステムになっています。学校英語の目標は達成されますが、世界で通用するコミュニケーション能力へと繋がるシステムにはなっていないのです。将来の高等教育や職業につながる「使える英語」を学生時代に学ぶことができれば、学校における英語教育はより有意義になるのではないかと考えています。

数学の場合は、数学 A, B, I, IIB, III 等とカリキュラムが分かれていて、生徒は将来進む道に従って履修科目を選択することができます。英語も同様のカリキュラムにするべきだというのが私の持論です。大学受験のために、日本人が固執しがちな「学校文法」や「難解な表現」を苦勞しながら暗記するよりも、英語圏の中学生が読んでいる文章を日本語に近いスピードで「読む」力、それについて自分の意見を「話す」力を習得する方が、負担が少なく効果的だと思います。

英語が「実用レベルで使える」ことは、自分の身を守ることに直結しています。EA を開校した 2 年半後に、東日本大震災が発生しました。海外のニュースは一斉に「福島第一原子力発電所でメルトダウン（炉心溶融）発生！」と報道しました。フランス語圏、ドイツ語圏、アラビア語圏等、世界の主要メディアは「英語」でも放送しているため、世界中のニュースを英語で読む（聴く）ことができるのですが、この時は、日本政府だけが「メルトダウンではありません！」と言い続け、とても不思議な気分になったのを覚えています。

この時、EA のネイティブ講師たちは、自国のニュースや駐日大使館から情報を得て、大阪や西日本に避難し、生徒の中には親戚のいる九州に避難した人もいました。この人達は皆、英語のニュースを見ていたのです。その後、東京の金町浄水場でも放射性ヨウ素が検出され、東京都は乳児のいる家庭にペットボトルの水を配布しました。幸い、2 週間ほどで先生も生徒もスクールに戻ってきましたが、この時ほど「英語が使える」ことが、生命にも関わることであったことはいまありませんでした。東京電力は事故から 2 か月後までメルトダウンを正式に認めませんでしたし、日本政府は国民がパニックにならないように努めたのだと弁明。この大事故のメディア報道により、私は EA を今後も長期に渡り存続させる意義と使命感を新たにしました。

### 海外留学すれば英語は話せるか？

EA の門を叩いた皆さんの中には、英語の「音」が大好きで、自分が英語をペラペラ話している姿を想像だけでワクワクするという生徒さんから、来月外国企業と英語で交渉しなければならない、という生徒さんまで、色々な動機があります。「英文法は苦手」という方から、「英語の読み書きは一通りできる」という方までいますが、その共通項が「英語が話せるようになりたい！」というものです。「海外留学すれば英語が話せるようになりますか？」とよく聞かれます。英語が話されている環境にある一定期間身を置くと、リスニング能力が伸びるのは感じるでしょう。でも、スピーキングに関しては、自ら積極的に、意識的に話さなければ、決して話せるようになりません。短期の語学留学であれ、長期の正規留学であれ、海外留学はその期間をどのように過ごすかにかかっています。

ご参考までに、海外経験のある生徒さんの例をいくつか挙げてみましょう。

高校で1年間英語圏に交換留学に行く生徒がいます。帰国後、彼らは感心するほど綺麗な発音と若者独特のイントネーションで、上手に英語を話します。10代は天才的で、英語教師も羨むほどに、自然なスピードで話します。でも、それは日本の中2レベル（英語圏の小学2-3年レベル）の英語を流暢に話しているにすぎません。自分の日本語レベルには到底達していませんから、英語圏の同級生が読む小説を、日本語と同じスピードで読めるかとういうと、そうではありません。しかし、この fluency（流暢さ）を獲得したことは、今後英語が上達していく素地としては申し分のないものです。ここに語彙と表現力をつけていけばいいのですから。この fluency を保持していくためには、スピーキング環境を意識的に、継続的に作っていくことが極めて重要となります。

EA には、英語圏の大学や大学院を卒業した方や、博士号を取得した方も通っています。この方々の英語レベルにも幅がありますが、大半の方は中上級～上級～プロレベルです。それでも日常的に英語を使っていないと「話す」能力は簡単に低下してしまいます。反対に、「聞く」能力は少し怠けても、すぐに復活します。実社会で流暢に英語を操り、グローバルな環境で仕事をしている大人達は、地道な努力を続けていることがお分かりでしょう。

海外赴任のために、幼稚園から4年間英語圏で現地校に通い、小学3年で帰国、EA で英語を続けた生徒さんがいます。彼は今、日本の大学生ですが、英語力は上級レベル（TOEFL110点）に達しており、同級生の中では群を抜いています。今後、英語を日本語と同等のレベルまで引き上げることができれば、頼もしいグローバル人材として活躍できるでしょう。概して、帰国子女は子供の頃に獲得した発音がネイティブ並みなので、一見ペラペラに聞こえますが、そのレベルは小学校低学年レベルの場合が多いのです。帰国子女で本当に英語ができる人は、英語の本をたくさん読み、話す環境を積極的に求めて弛まぬ努力をしています。

大学を出ても中学レベルの英語が話せない日本人を考えると、これらの事例には大きなヒントが隠されています。言葉は元来「音声」から始まり、文字のない時代を経て、途中で文字を獲得して発達してきました。従って、「音声学習」なしには言葉を学ぶことはできません。日本の学校英語に決定的に欠けているのは、この点です。子供は誰も天才的な聴力をもっています。ですから、小さい頃から継続的に英語を学んでいる子供達は、大きくなってリスニング能力を保持している場合が多いのです。中学高校で「英文読解」の授業と「コミュニケーション」の授業を別々に行い、前者は日本人教師、後者は英語ネイティブ教師が担当していることが、そもそもの間違いなのです。これでは何年かかっても英語で自分の意見を言い、ディスカッションができるようにはなりません。日本人とネイティブ講師がタッグを組んで、同じ教材を読解にもコミュニケーションにも、とことん使って教えるべきだと考えます。

## 英語の学び方と EA メソッド

それでは、イングリッシュ アベニュー メソッド【EA メソッド】についてお話ししましょう。

英語を独学しようとした場合、何が問題になるのでしょうか？

そこには主に3つの問題が考えられます。

1. 到達目標を明確に設定していない。
2. 英語学習法が間違っている。
3. 英語に費やす時間が十分ではない。

【EA メソッド】は、これら3つの問題点について、ソリューションを提供する学習法です。

「何年くらいやれば英語を話せるようになりますか？」とよく尋ねられます。そこで、どのレベルで話せるようになりたいのか聞きます。すると答えは、「一通りのことを英語で言えるようになりたい。」と、漠然としたものが多いのです。そこで、最初に到達したい目標を明確に設定する必要があります。学校を卒業後、英語から遠ざかって10年ぶりに英会話を始めるという典型的な生徒さんの場合、中学3年レベルの英語で fluency（流暢さ）を高めることを目標にすることをお勧めしています。

## 1. 最初の目標は中3レベルに設定

最初の目標は、「**中学3年レベルの英語で自由自在に話せるようになること**」に設定します。そう提案すると、優秀な大人の生徒さんは、「TOEIC900点をとっているし、時間の無駄にならないか?」「そんな英語は幼稚に聞こえるのではないか?」とおっしゃいます。でも、安心してください。幼稚には聞こえません。なぜでしょうか?

日本人は、日常会話をする時「漢語」（漢字二文字できた単語、例：避難（逃げる）、危険（危ない）や三字・四字熟語など）を普通に使用しますが、英語の日常会話では、難しい単語（ラテン語・ギリシャ語由来の長い単語）を使って話すことはほとんどありません。試しに、アメリカ大統領のツイッター(@POTUS)を見てください。話し言葉においては、英検1級に出てくるような難解な単語ではなく、英語の「本来語」を使って話されています。英語の「本来語」とは、日本語の「やまと言葉」に相当するもので、ラテン語・ギリシャ語由来の単語は日本語の「漢語」に相当します。例えば、endeavor よりも try、terminate よりも end、contribute よりも help を使って話すのが普通で、自然なのです。

## 2. 英語チャンネルを作る学習法

優秀な学校を卒業した生徒さんほど、成功体験のある受験用の勉強法に頼る傾向があります。よく見かけるのが、英日対訳で単語帳を作成して、使えそうな文章を左に日本語、右に英語と綺麗に書き出し、英文法も一通り復習。でも、半年後に「こんなに何冊もノートを作って努力しているのにスラスラ話せないのはなぜでしょうか。」と悩みを相談されます。話せるようにならない理由は簡単です。英語を学ぶ方法が間違っているからです。暗記した文章は、必要がなければそのうち忘れまじし、話したいことを全てノートに書き出すのは不可能です。ここで注意すべきことは、「話す」時には、前もって自分の言いたい事をノートに書かないことなのです。

英語の「会話」を目指すのであれば、受験勉強で暗記した難しい単語や不完全な学校文法は一旦、横に置いてください。そして、英語の「本来語」、つまり中学校で出会った「基本単語」を使って話をするのが、自然な会話をする鍵となります。例えば、postpone ではなく put off、contribute ではなく help、obtain ではなく get、などが英語の「本来語」です。英語圏では小学校3年までに覚える「基本単語」で、sight words（目で見てすぐに認識できる単語）や high-frequency words（高い頻度で使われる単語）を含んでいます。これらの単語を使った短めのストーリーをたくさん読んで英語をインプットし、そこから文章を借りて（自分で英作文しない）、自分を主語にして口から英語を発する練習をします。

EA の授業は What's New? から始まるのですが、ここで生徒さんは 1 週間の出来事や最近考えたことを基本単語・フレーズを使って話すことが求められます。最初は瞬間英作文をして（日本語に影響され）難しい単語を使う方が多いのですが、自然な英語に直されクラスノートに書き留められた英文を見て、「こんな簡単な単語で言えるのですね。」という感想をもらします。皆さん、基本単語でほとんどのことが言えることに驚きます。

英語は、日本語と文化も発想も全く異なる言語です。従って、日本語から英語に単語ごとの逐語訳をすると、日本語発想の不自然な英語になってしまい、意味は十分に通じません。誤解を招くこともあります。では、どうやって話せば良いかと言うと、和文英訳をやめることです。何を話すか考えた後、頭の中から意識的に日本語を追い出して、言いたいことの「絵」（イメージ）を頭の中に思い描く（visualize する）のです。例えば、「今週末は六本木に映画を見に行つて、美味しい食事をしたい」と言いたければ、頭の中に日本語の「文字列」ではなく、週末に見たい映画を選んで美味しい食事をしている自分の姿を「絵」にして思い描きます。それから、その「絵」について中 3 英語で説明するのです。そこに日本語は介在していません。これをイングリッシュ アベニューでは「**英語チャンネル**」と呼んでいます。

最初は頭の中に日本語が浮かんで邪魔をしてくると思いますが、意識的に追い出しましょう。英語チャンネルでは「テーブルの上の黄色い花」を見て、日本語なしに “yellow flowers on the table” と口から発する感覚を大切にします。自宅学習では、目の前にある状況をアナウンサーのように、英語で実況中継するのも良い練習になります。そして、授業中はとにかく気にせず、「I+動詞の過去形」でたくさん話をしてください。話のキャッチボールができるようになったらしめたものです。

EA メソッドに慣れるまでは、頭の中は日本語と英語が併存していて、大変忙しい状態になっているでしょう。十分な時間を英語に費やす必要があるのに、瞬間英作文を続けているうちに脳は疲労困憊してしまい長続きしません。英語学習を継続するためには、下記の 2 点を念頭に置き、頭の中に「**英語のチャンネル**」を作っていく必要があります。

- ◆ 自分が話したいこと（話題）の「絵」を頭の中にたくさんストックしておく。
- ◆ 読み物は、興味のある知りたい話題を選び、文字や単語ではなくストーリーを追う。

EA では、英語ネイティブ講師が授業を担当しています。レッスンプランは目標に合わせて様々ですが、大人の生徒さんの場合、共通した 2 つのコーナーがあります。前述の What's New? と News in Brief です。後者は短い「英語ニュース」を初見で音読し、わからない箇所は英語で質問し、最後に要約します。ニュース内容は同じでも、英語レベルによって難易度を変えた ESL 教材を使用しています。ニュースを読んでストーリーを追いかけて、最初は英文記事から英語を借りてきて要約し、慣れてきたら自分の英語で要約します。その後、記事について自分の意見を言う練習をします。世の中では、同じニュースが日本語のニュースでも流れていますから、辞書を引かなくても察しがつきます。これを一定期間続けていくと、その話題について、文字を見なくても自分の意見が言えるようになっていきます。ESL ニュースを卒業した生徒さんは、ジャパン・トゥデイや USA トゥデイを手始めに、ガーディアン、ワシントンポスト、CNN, ABC ニュース、ニューヨークタイムズ、エコノミストを読み、ディスカッションができるようになっていきます。

要約すると、最初は初級レベルでペラペラになることを目指すのです。ピアノで例えるなら、バイエルやツェルニーの楽曲が、練習量を増やしていくにつれて脳と指の神経回路がしっかりと繋がり、譜面を見ずに弾けるようになっていくのと似ています。英語の場合は、音声によるインプット（聴く）を最優先にして、次に読み、話す量を増やしていくと、脳と口の神経回路ができていき、練習量を増やすことにより回路はしっかりと繋がっていきます。文字ではなく、頭の中の「絵」を英語で説明できるようになっていきます。

中3までの英語に自信がある人も、そうでない人も、初めはとにかく自由にたくさん英語を話すことが重要です。発した英語が通じない場合、担当ネイティブ講師は聞き返してきます。不自然な英語については、その場でインターネット上のクラスノートに自然な英語に直して書き留めてくれますから、自宅で復習し、自然な英語を次回のレッスンまでに何度も音読して自分のものにしていくことが肝心です。そして、次回のレッスン冒頭の What's New? で必ず使う努力をしてください。暗記するのではなく、とにかく何度も口から発することが重要なのです。

### 3. 学習時間を確保する

技術を習得するには一定量の時間を費やす必要があります。英語を話せるようになるにも、一定期間集中して話し続けなければ、話せるようにはなりません。練習量はスピーキング能力と正比例しています。つまり、一定量を達成できれば、英語は話せるようになるのです。そして、英語学習の場合、上級の入り口まで辿り着けば、少々怠けても、数日練習すると到達レベルを回復することができます。そこからさらに上達することが可能です。リスニング能力について言うと、しばらく英語から遠ざかっていたとしても、到達レベルを回復するのは比較的容易であることは、多くの方が体験しています。

どのようにして英語の学習時間を確保するかというのは、個々人のライフスタイルによって異なりますが、語学の場合、短期集中が非常に効果的です。年末年始の休暇、ゴールデンウィーク、夏休み等を上手く利用した短期集中型の学習がお勧めです。その後は、毎日無料配信される英語圏のニュースを購読するのが経済的で効果的です。時間がなければヘッドラインとリードを5分読むだけでも効果があります。また、英語圏の有名人の SNS をフォローし、ホームコメディ（sitcom）や映画、YouTube でお気に入りの俳優やスポーツ選手などのインタビューなどを観るのも良いでしょう。また、自分でも定期的に SNS で英語発信してみるのも一案です。いずれにしても、毎日英語に接する時間を少しでも確保する工夫をしてください。楽しみと英語を組み合わせて、英語に触れる時間を習慣化するのが、長続きする秘訣です。継続は本当に力になります。機会があれば、短期留学や海外旅行も英語学習に弾みがついてお勧めです。

### EA メソッドの実践

ここまで、私たちが長年にわたり実践してきた EA メソッドについてお話してきました。私たちの蓄積してきたノウハウが少しでも皆様の効果的な英語学習に役に立つことを願っています。一年後になりたい自分を目標設定して、今日から EA メソッドを実践し、口の周りに英語の筋肉がついてくることを体感してください。一年後にお目にかかるのを楽しみにしています。

Keep up the good work!